

第33回「大阪の消防大賞」受賞者

消防職員の部

所属	受賞者	功 績 概 要
摂津市 消防本部	警防第2課 藤山 嘉将 氏	平成30年1月2日、非番だった藤山さんは、神戸・三宮の居酒屋で高校時代の友人と食事をしていた。突然、調理台から炎が立ち上がった。藤山さんは、店員とともに機敏に50人の客を出口に誘導し、消火器で火を消し止めた。身を守る装備もなく、すすまみれになりながら、神戸市の消防隊が到着するまで懸命の消火活動を続けた。高校時代はラグビー部。「体力を生かし、人を助ける仕事を」と消防士になって4年目で大賞に輝いた。
東大阪市 消防局	予防広報課 (4人)	平成29年、市内で発生した4件のリチウムイオン電池が原因の火災を受け、類似火災を未然に防ぐため、消防局予防広報課火災調査隊は立ち上がった。 まず、市内の携帯電話店舗に顧客から火災と推測される連絡があった場合や事故品が店舗に持ち込まれた際の従業員対応マニュアルを作成させ、通報体制を確立。さらに電池の発火実験をテレビで紹介し、市内外に広く注意を呼びかけた。
岸和田市 消防本部	岸和田市消防署 (5人)	台風21号の豪雨で大沢地区の浸水が拡大したのは平成29年10月22日。「胸の高さまで水がきて動けない！」。水没した車から脱出した男性が流木につかまり、携帯電話で助けを求めてきた。 日没後の薄暗い谷間にすさまじい濁流の音が響いていた。しかし救助隊員は徒歩で山の斜面を進み、最後は深さ3.5mの濁流を泳いで男性に近づき、ロープを使って救助した。 救助担当司令「一刻を争う緊迫した状況で、激しい川の流れにも臆することなく職務に専念した隊員に敬意を表したい。」